

3. IFRS 財団アジア・オセアニアオフィス 開所記念式典の様相

FASF 事務局次長 **にし の ゆうじ**
西野 勇治

1 はじめに

IFRS 財団のロンドン以外で初の海外拠点となる IFRS 財団アジア・オセアニアオフィスが、東京都千代田区大手町に新設された大手町フィナンシャルシティサウスタワー5階に本年10月に開設され活動を開始した。11月15日に経団連会館において財務会計基準機構(FASF)とIFRS財団との共同主催でIFRS財団アジア・オセアニアオフィスの開設を記念する式典が開催されたので記念式典の様相を報告する。なお、文中の意見にわたる部分は筆者の私見であることをあらかじめ申し添える。

2 オープニングセレモニー

記念式典の中心イベントは、オープニングセレモニーとして開催した経団連会館/経団連ホールでの記念講演会であった。経団連ホールには、海外からのゲスト約20名、国内関係者からのゲスト約100名、FASF会員からの参加申込者約270人、マスコミ関係者約10人の合計約400名が参加、同ホールの収容人員一杯となりようやく実現したIFRS財団アジア・オセアニアオフィスへ開設への強い関心と期待が感じられた。記念講演会はこのアジア・オセアニアオフィスの日本招致実現に尽力されたIFRS



財団評議員会副議長の藤沼亜起氏から開会の辞と、初代のディレクターとなり、今回の記念講演会の司会進行を行う竹村光広氏の紹介があり、その後は竹村氏の司会で各氏の講演がスタートした。はじめに主催者代表挨拶として、FASF 萩原敏孝理事長とIFRS財団評議員会M.プラダ議長が挨拶され、その後、中塚一宏金融担当大臣から基調講演がなされた。これらの中で、ますます重要性を増すアジア・オセアニア地域に新しいオフィスができることの意味合いが述べられ、IFRS財団側からは日本の支援への感謝が述べられた。次いで、グローバルな会計基準に向けての見解と題して、IFRS財団モニタリング・ボード暫定議長の金融庁の河野正道氏、IFRS財団評議員のJ.ルーシー氏、

国際会計基準審議会（IASB）議長の H. フーガーホースト氏、企業会計基準委員会（ASBJ）委員長の西川郁生氏、現在アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）議長を務めている K. スティブソン氏という現在の IFRS の世界で重要な役割を担っている各氏から、アジア・オセアニアオフィス開設の意義と重要性、今後のその役割への期待が述べられた。この内で K. スティブソン氏は日本の国際的な財務報告基準作りの関与に輝かしい歴史があり、ASBJ が AOSSG の前の議長を務め基準諮問委員会（CAC）の設置等で AOSSG をリードしてきたことを高く称賛し、日本にアジア・オセアニアオフィスが設置されたことへの賛辞を述べられた。それ以外でも、ここではアジア・オセアニア地域の経済的なプレゼンスの高まり、地域としてまとまり意見を発信することの重要性が述べられ、ここで記念講演会の前半を終え休憩となった。

後半は、まずはじめに、2011 年から IFRS の強制適用に踏み切った韓国の経緯について、韓国会計基準委員会の副委員長 C. キム氏から詳細な報告がなされた。ここでは、1997 年の金融危機を契機に会計制度全体の再編を誘発し、10 年以上を掛けた IFRS 採用に向けた歴史的な動きをその準備と適用の視点で説明があり実務上の影響、そこから学んだ教訓と極めて参考になる報告がなされた。続いて、日本からの IASB 理事として活躍されている鷺地隆継氏がモデレーターとなり、「アジア・オセアニアでの IFRS 導入とアジア・オセアニアオフィスの役割」をテーマにパネルディスカッションが行われた。パネリストとして、新しいアジア・オセアニアオフィスを活用するキーパーソンとしての IASB 副議長の I. マッキントッシュ氏及びオフィスの日本設置に影響力を発揮した IFRS 財団評議員会のアジア・オセアニア地区選出の評議員として、オーストラリアの J. ルー

シー氏、韓国の D-K チャン氏、インドの C. B. バープ氏、香港の R. アーカリ氏、日本の島崎憲明氏の各氏が参加した。パネルは、最初に島崎憲明氏から日本にアジア・オセアニアオフィスが設置されるに至った経緯が詳細に説明された。そこでは、2008 年から開始されたロンドン以外にサテライトオフィスを設置する計画がリーマンショックで一旦中断された議論がアジア・オセアニア地域の経済的プレゼンスと IFRS 導入の拡大を背景に 2009 年頃から再燃してきたこと、それを受けて日本が官民一体となって招致活動に取り組んできたこと、さらに、豪州、インドを中心としたアジア・オセアニア地域の評議員の協力が得られたことが今回東京にアジア・オセアニアオフィスが設置されたこと背景だと述べられた。その後、パネリストの各氏は新しいオフィスの 3 つの機能（地域内の専用連絡先、地域ベース／リサーチハブ、協力のためのプラットフォーム）を中心にオフィスの役割期待を述べ、これまでの経験を踏まえて示唆に富むお話しをされた。

3 記念晩餐会

オープニングセレモニーの締め括りとして、経団連会館／国際会議場で内外のゲスト約 110 名を招いてアジア・オセアニアオフィス開所記念の晩餐会が催された。はじめに、カクテル・レセプションを行い今回この式典のために来日された、IFRS 財団評議員会議長の M. プラダ氏、ISAB 議長の H. フーガーホースト氏ら IFRS 財団関係の要人と日本の市場関係者とのご挨拶、ご歓談の場が持たれ、お互いの状況の理解を深めることができた。その後、晩餐会テーブルに移り、主催者である FASF の萩原理事長より挨拶、次に来賓代表として中塚金融担当大臣からお祝辞をいただき、IFRS 財団評



議員会の藤沼副議長のご発声で乾杯し記念の晩餐会がスタートした。食事の途中には、東京証券取引所グループの齊藤社長、経団連企業会計委員会の釜委員長よりご来賓のご挨拶をいただいた。会食中の各テーブルでは今回のオープニングセレモニーの様子や、これからのアジア・オセアニアオフィスの役割等について会話が弾み内外関係者の相互理解が深まり、懇親を深めることに役立った様子であった。最後に、

主催者の一方を代表して IFRS 財団評議員会のプラダ議長より御礼のご挨拶があり、和やかなうちに記念晩餐会を散会した。

4 おわりに

今回の記念式典では、IFRS 財団評議員会のプラダ議長と IASB のフーガーホースト議長が揃って来日され、新しく開設されたアジア・オセアニアオフィスへの IFRS 財団の並々ならぬ気持ち、期待が感じられた。今回の式典の合間をぬって、IFRS 財団のトップは中塚金融担当大臣、畑中金融庁長官、米倉経団連会長とも面談され、新しいオフィス開設に関する記者会見も行い、IFRS 財団の考え方、期待が日本の関係者へ伝えられた。オープニングセレモニーのなかで、何度も述べられたこれからのアジア・オセアニアオフィスへの期待を実現するために、FASB としても日本の関係者とともにも今後もこれまで同様にアジア・オセアニアオフィスの活動のサポートを継続していきたい。

プログラム

- ・日付 2012年11月15日
- ・時間 午後3時-6時
- ・会場 経団連会館経団連ホール

始めに：藤沼 亜起 氏 IFRS 財団評議員会 副議長 司 会：竹村 光広 氏 Asia-Oceania 事務所長	
共同主催者からの開会の辞、歓迎の辞 [15:00-15:20]	
萩原 敏孝 氏 Mr. M. Prada	財務会計基準機構 理事長 IFRS 財団評議員会 議長
基調講演 [15:20-15:30]	
中塚 一宏 氏	金融担当大臣
グローバルな会計基準に向けての見解 [15:30-16:20] (各10分)	
河野 正道 氏 Mr. J. Lucy Mr. H. Hoogervorst 西川 郁生 氏 Mr. K. Stevenson	IFRS 財団モニタリング・ボード暫定議長 IFRS 財団 評議員 国際会計基準審議会 議長 企業会計基準委員会 委員長 Asian-Oceania 会計基準設定主体グループ 議長 休憩 [16:20-16:40]
ケーススタディ：韓国における IFRS 導入の経験 [16:40-17:00]	
Mr. C. Kim	韓国会計基準委員会 副委員長
パネルディスカッション：Asia/Oceania での IFRS 導入と Asia-Oceania 事務所の役割 [17:00-18:00]	
モデレーター 鷺地 隆継 氏 パネリスト Mr. I. Mackintosh Mr. J. Lucy Mr. Duck-Koo Chung Mr. C. B. Bhave Mr. R. Arculli 島崎 憲明 氏	国際会計基準審議会 理事 国際会計基準審議会 副議長 IFRS 財団 評議員 IFRS 財団 評議員 IFRS 財団 評議員 IFRS 財団 評議員 IFRS 財団 評議員